



コンサートがもっと楽しくなる…♪

オーケストラの楽器たち③～木管楽器～

平塚フィルハーモニー管弦楽団

五百川 伸子



左からファゴット、クラリネット、オーボエ、フルート

オーケストラで使われる主な木管楽器は、フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴットの4種類です。

木管とはいいながらも、写真のフルートはどうみても金属できていますよね。金属のフルートが考案されたのは

今から約160年前で、それ以前は木製が主でした。「管楽器で、唇の振動により音を出す金管楽器（リップ・リード）以外の楽器は、必ずしも木できていなくても木管楽器である」と考えることができます。

木管楽器の大きな特色はそれぞれの楽器の音色の違いがはっきりしているところでしょう。

音色の違いは、音を出すしくみ（発音源）の違いによります。

フルートは唇から出る空気の束を楽器の吹き込み口の縁にあてることで気流の渦を発生させ、空気を振動させて音を出します。

オーボエ、クラリネット、ファゴットは葦（あし）の一種であるケーンという植物から作られた、リードと呼ばれる薄く小さな弾力のある木片を振動させて音をだします

流麗で爽やかな持ち味のフルート、甘く美しく旋律を歌い上げるオーボエ、消え入るような弱音から華やかな分散和音まで多彩な表現のクラリネット、深い響きの低音から甘い高音メロディまで守備範囲の広いファゴットといったところでしょうか。

以下に各楽器の色々な種類の写真をご紹介しますので、機会がありましたらぜひ実際の音を聴いてごらんになって下さいね。



上からピッコロ、フルート、アルトフルート



上からコール・アングレ、オーボエ・ダモーレ、オーボエ



上からバスクラリネット、クラリネットA管、クラリネットB管、ソプラニーノ(Es)クラリネット



左がファゴット、右がコントラファゴット

「まちの小さな演奏会」

～小さいけれどダイヤのようにキラリと光る「まちの演奏会」を紹介します～

連載第1回 医院待合室での「知的障害者支援チャリティーコンサート」
主催 坂本歯科医院 坂本貴史院長

9月30日（日）市内紅谷町にある坂本歯科医院の待合室にて、プロのオーボエ奏者3名を招いたチャリティーコンサートが開かれた。観客は院長の友人ら約30名。演奏者の息遣いまで感じられる間近での演奏に聴き入った。

第10回目の節目となる今回は「蔭のコンサートマスターオーボエとイングリッシュホルンの音色を楽しむ」と題して「3本のオーボエの為のソナタ」（ポアモルティエ作曲）、「2本のオーボエとイングリッシュホルンの為のトリオop. 87」（ベートーヴェン作曲）の2曲が演奏された。

昨年は「ホルンの音色を楽しむひととき」のテーマでホルン奏者3名による演奏会、一昨年はモーツァルト生誕250年にちなみ「モーツァルトを弦で楽しむ夕べ」のテーマで弦楽三重奏が催されている。いずれも、ユニークで興味深いテーマのもと、各分野で活躍中の著名なアーティストを招聘しての演奏会となっている。



挨拶する坂本院長

演奏に引き続き、恒例となっている武蔵工業大学教授 山西龍郎氏の講演が行われた。山西氏は、ホルン研究の第一人者であり、「音のアルカディア 角笛の鳴り響くところ」の著書で芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞している。

この待合室でのチャリティーコンサートは、山西氏が16年ほど前に患者として訪れた際、坂本院長の趣旨に賛同し演奏家の紹介を引き受けたのがきっかけのこと。収益は知的障害者の施設や団体に寄附される。



第8回コンサート「モーツァルトを弦で楽しむ夕べ」のひとコマ(H17.11.13)